

経営比較分析表（平成28年度決算）

岡山県 新庄村

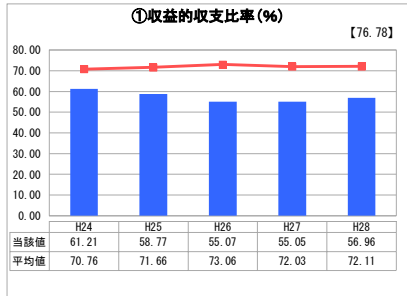
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	94.83	1,890	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
953	67.11	14.20
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
899	27.02	33.27

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成28年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



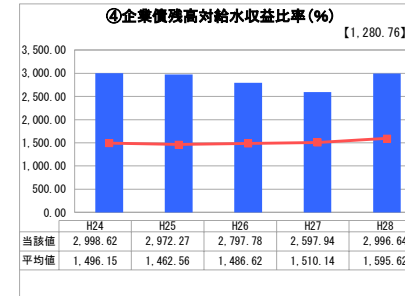
「単年度の収支」



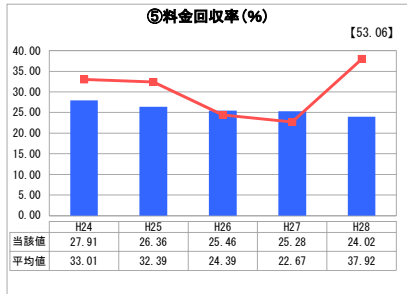
「累積欠損」



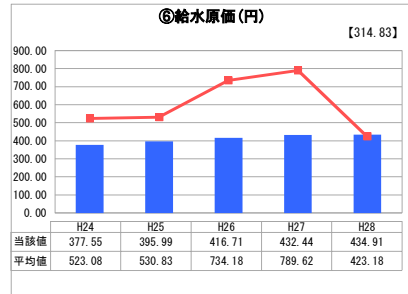
「支払能力」



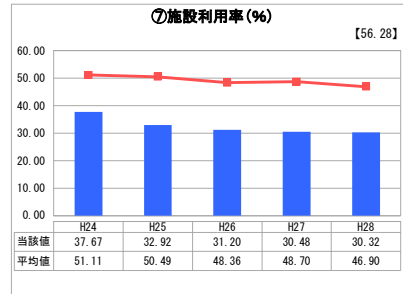
「債務残高」



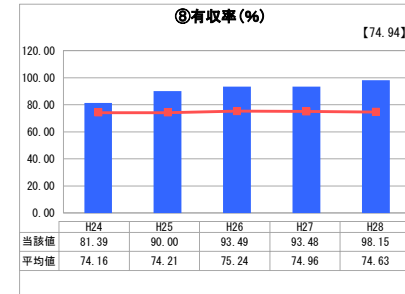
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

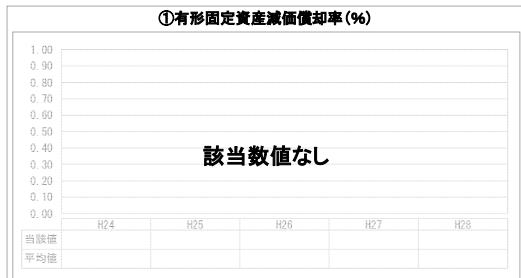


「施設の効率性」

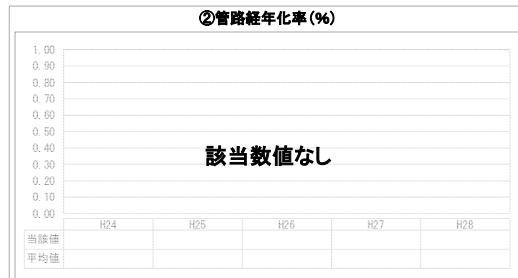


「供給した配水量の効率性」

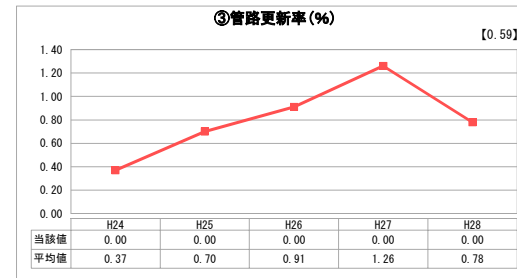
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は、人口減少により水道料金が伸びず、類似団体に比べて低い率で推移している。企業債残高対給水収益比率は、類似団体より高い傾向にあるが、これは、簡易水道の統合事業等を行ったため、水道事業の収益に対して企業債残高が高くなっているためである。統合事業等は、平成28年度に終了したため、今後、企業債残高は減少していく見込みである。

また、給水原価は、類似団体並となっているが、料金回収率、施設利用率は、類似団体を下回っており、経営の効率性は悪いと言える。

上記のとおり簡易水道事業は、給水収益で賄えない状況である。企業債の償還等もあり、一般会計からの繰入金で事業運営を行っている状況である。

2. 老朽化の状況について

老朽化した管路の割合が低いため、類似団体に比べて有収率は高くなっているが、一般会計からの繰入金に頼った経営状況であり、将来の改修、更新に備えた計画を策定しておく必要がある。

全体総括

県内でも一番小さな自治体であり、一世帯あたりの数値の変動が全体に対して与える影響は大きい。今後、料金収納率の向上、料金改定の検討、経営の効率化を図り、企業会計の健全化を進めていく。また、老朽化対策等については、事業全体の経営バランス等を考慮し、更新を進めていく。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。